

とうきょう

2026.2.25

No.2

会報

お知らせ

東京体育学会第 17 回学会大会開催のご案内

日 時：令和 8 年 3 月 4 日（水）13：00～17：30

場 所：東京学芸大学 小金井キャンパス

テーマ：「AI 時代における体育・スポーツ科学の行方」

—変わらない本質と変わり続けるテクノロジー—

【もくじ】

- ・令和 7 年度第 105 回研究会報告（2）
- ・令和 7 年度第 2 回常任理事会・理事会議事録（3）
- ・令和 7 年度第 17 回学会大会プログラム一覧（5）
- ・令和 7 年度第 17 回学会の概要（7）

第 105 回研究会開催報告

「体育・スポーツ嫌いをなくす 実践的取り組み」

令和 7 年 10 月 14 日（火）に第 105 回研究会をオンライン形式で開催しました。

「体育・スポーツ嫌いをなくす 実践的取り組み」のテーマのもと、4 名の講師に御講演を頂いた。

【開催概要】

日 時：令和 7 年 10 月 14 日（火）18：30～20：30

方 法：オンライン（Zoom）

講 師：広瀬統一（早稲田大学スポーツ科学学術院）

田村恵彦（株式会社 biima 代表取締役）

小路拓也（一般社団法人 Arc & Beyond）

松井直樹（東京学芸大学附属大泉小学校）

参加者：約 60 名

概要：

「好きな教科の 1 位は体育。嫌いな教科の 3 位も体育。」一子どもたちのアンビバレントな回答に象徴されるように、体育やスポーツ、健康に関わる活動は、「好き」と「嫌い」が表裏一体の存在である。無理に好きになる必要はない。しかし、嫌いになってほしくはない。同様に、病気が好きな人はいないが、健康になるための取り組みに対しては「嫌い」「面倒」「続かない」と感じる人が多いのが現状である。では、私たちはいかにして「健康」や「身体活動」を、より身近で心地よいものとして捉え直すことができるだろうか。

本研究会では、教育・福祉・地域・医療・スポーツなど多様な領域で実践と研究に取り組む参加者が一堂に会し、「嫌いにならないための実践的アプローチ」について考察する。研究と実践の対話を通じて、誰もが自然に身体と関わり続けられる社会の在り方について、共に探求することを目的とする。

なお、本研究会は、2025 年度に「体育・スポーツ嫌いをなくす」、2026 年度に「健康嫌いをなくす」をテーマとし、実践的取り組みとその応用について、シンポジウム形式で議論を行う予定である。

東京体育学会 第105回研究会

**体育・スポーツ嫌いをなくす
実践的取り組み**

2025年
10月14日(火)
18:30-20:30 予定

オンライン開催
参加費無料

1. 遊びを通じた神経発達症児童の発達の土台づくり
| スポーツ・福祉・体育の接続 |
広瀬統一 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

2. 子どもが運動を楽しみながら成長する実践的仕組み
| マルチスポーツと体育の接続 |
田村恵彦 (株式会社biima代表取締役)

3. テクノロジーとデザインを活用した教育プログラム
| ITと体育の接続 |
小路拓也 (一般社団法人 Arc & Beyond)

4. 子どもの成長を育む体育科教育の実践
松井直樹 (東京学芸大学附属大泉小学校)

ファシリテーター：細越淳二 (国士館大学文学部)

主催 東京体育学会 会長 沢井史穂 理事長 柏木悠

東京体育学会
令和7年度第2回常任理事会・理事会 議事録

日時：令和7年10月14日（火） 17時00分～18時00分
形式：オンライン（Zoom）

出席者

理事：稲葉優希、太田あや子、柏木悠、川上泰雄、菊池直樹、熊川大介、沢井史穂、
田中重陽、野井真吾、袴田智子、広瀬統一、芳地泰幸、細越淳二、星川佳広、
森山進一郎、村岡哲郎、吉岡伸輔、船渡和男（敬称略）

計18名

事務局：南智子

欠席者

理事：秋葉茂季、相馬満利、岡出美則、及川佑介、宮地元彦、佐々木玲子（敬称略）

計6名（委任状提出5名）

柏木理事長より出席・欠席者数と委任状提出数の報告がなされ、決議が成立することが確認された。

I. 審議事項

1. 東京体育学会 第17回学会大会の開催について

柏木理事長より【審 - 資料1】に基づき今年度の第17回学会大会の会場（案）について提案がなされ、審議の結果、東京学芸大学で開催するところが承認された。また、開催日は2026年3月4日（水）で調整された。

2. JSTによる東京体育学研究の抄録のAIによる利用許諾について

柏木理事長より【審 - 別資料2】に基づき国立研究開発法人 科学技術振興機構より東京体育学研究の学会抄録のAIによる利用許諾の依頼が来ていることについて説明がなされ、審議の結果、利用を許諾することが承認された。併せて、学会大会の演題申込み要項にAIによる抄録の利用が許諾されている旨を明記することが確認された。

3. その他

なし

II. 報告事項

1. R7年度中間会計報告について

庶務会計担当の田中理事より【報 - 資料 1】に基づき R7 年度中間会計報告がなされ、若手研究助成金を基金会計ではなく、本会計より支出することにより、本年度は赤字決算となる見通しが報告された。また、赤字については、繰越金で補填することが確認された。

2. 新入会員、退会・転出者について

柏木理事長より【報 - 資料 2】に基づき新入会員、退会・転出者について報告がなされた。

3. 東京体育学研究第 17 巻について

柏木理事長より【報 - 資料 3】に基づき東京体育学研究第 17 巻の編集状況について報告がなされた。

4. その他

特になし

III. 懇談事項

1. 東京体育学会会則の改正について

庶務会計担当の田中理事より【懇 - 別 資料 1】に基づき東京体育学会の会則について、現在の理事会の運営状況に合わせた規則に改正していく方向で確認された。

2. 東京体育学研究の印刷について

柏木理事長より東京体育学研究の今後の冊子体の印刷について説明がなされ、印刷を廃止するか否かについては、会計状況とは別に、昨今のペーパーレス化の情勢など勘案して検討していくことが確認された。また、併せて会費の値上げも視野に入れて、今後の学会の活動を更に強化していくことが意見交換された。

(文責：理事長 柏木悠)

第17回東京体育学会

一般研究発表 演題一覧

| 演題番号 | 氏名 | 所属 | 演題名 |
|------|--------|------------------|--|
| 1 | 前田 弥子 | 国士舘大学大学院 | 体育授業における教師の巡視行動に関する研究 －現職教員と教職志望学生の比較－ |
| 2 | 殿村 慎之輔 | 東京学芸大学 | 牽引泳による効果の違いを内省から捉える： タイムが向上した生徒と低下した生徒の比較 |
| 3 | 松村 昌紀 | 東京学芸大学大学院 | 牽引走を用いた体育授業の特別支援学校への導入可能性を探る－ 教員へのアンケートを通して－ |
| 4 | 石黒 遼 | 国士舘大学大学院 | 中学校運動部活動におけるバスケットボールの指導方法に関する検討 －基礎的技術の向上を目指したチェックリストの開発を通して－ |
| 5 | 西山 小百合 | 東京学芸大学 | 女子中学生における月経随伴症状の継続記録に基づく体育 授業・スポーツ活動への向き合い方の検討 |
| 6 | 酒井 泰葉 | 東京学芸大学大学院 | 水中運動は自閉スペクトラム症幼児の要求行動を引き出すか： 4歳1事例におけるクレーン行動の出現と泳技能の向上 |
| 7 | 原田 尚幸 | 和光大学 | 企業のCSR活動におけるスポーツ関連の取り組みについて |
| 8 | 與名 本稔 | 東海大学 | 陸上競技投擲選手を対象とした心理的競技能力と体力の関連性 |
| 9 | 大塚 月楠 | 平成国際大学 | バレーボールのレセプション返球率に対する利き目が与える影響 |
| 10 | 市川 柊 | 仙台大学 | ビーチバレーボール競技におけるサーブの戦術的有効性 |
| 11 | 木村 直登 | 神戸大学大学院 | 卓球における打球面特性の差異がボール速度・回転数に与える影響 －1959年の規則変更再評価のための基礎的検討－ |
| 12 | 及川 佑介 | 東京女子体育大学 | 大学女子バスケットボール選手における試合期への移行に伴うコン ディションとパフォーマンスの実態に関する事例研究 |
| 13 | 久保 健太 | 仙台大学 | サッカーにおけるシーズン途中の監督交代がチームに与える影響について ～2025年J1リーグ横浜FCを対象として～ |
| 14 | 大森 周 | 早稲田大学 | 大学ラグビーバックス選手における敵陣22m侵入時の外的負荷特性 －GPSデバイスを用いた試合分析手法の検討－ |
| 15 | 松本 貫太 | 仙台大学 | 野球競技におけるピッチクロック導入の事例的検討 |
| 16 | 木村 裕也 | 国立スポーツ科学 センター | 国際競技会スピードスケート女子チームパシュートレース におけるプッシュ戦術採用と選手間距離の調査 |
| 17 | 宮内 育大 | 日本大学 | 陸上競技投てき競技における競技会形式の変更が試合展開 に及ぼす影響 |
| 18 | 村石 光二 | 立教大学大学院 | 暑熱下での間欠性運動時における自発的飲水量とパフォー マンス低下率の関係性 |

| 演題 番号 | 氏名 | 所属 | 演題名 |
|----------|---------|------------------------|--|
| 19 | Lyu Hui | 早稲田大学スポーツ科学 学研究センター | 大学ラグビー選手における試合後の生体電気インピーダンス スペクトル解析指標の経時的変化 |
| 20 | 渡辺 華奈 | 仙台大学 | スポーツがもたらすウェルビーイングの可能性 —SWGsの視点変換— |
| 21 | 松井 咲樹 | 日本女子体育大学 | 地域在住のアクティブな高齢者の大腿筋厚と歩行能力、認 知機能の測定評価と相互関連 |
| 22 | 木下 紘伸 | 早稲田大学 | 筋電図の相互相関分析を用いたラグビーのスクラムにおけ る選手間の協調性の評価 |
| 23 | 横沢 翔平 | 平成国際大学 | セット間休息を伴う50回のデプスジャンプが主観的運動強 度と大腿四頭筋活動に及ぼす影響 |
| 24 | 茂木 康嘉 | 尚美学園大学 | 男子中学生におけるホッピング跳躍高と足関節底屈トルク、トル クの立ち上がり速度およびアキレス腱の形状的特性との関係 |
| 25 | 名合 哲 | 早稲田大学 | 野球投手と投球初心者における投球動作と筋活動の左右差 |
| 26 | 高橋 沙也花 | 日本女子体育大学 | 女子高校生フェンシング競技者の競技場面におけるストレスサー及び そのストレスレベルに対する認知的評価の影響 |
| 27 | 下坂 豪克 | 国土舘大学大学院 | 自体重に対する負荷別スクワットジャンプ跳躍高とフィー ルドテストの関係性 |
| 28 | 田邊 凱聖 | 国土舘大学大学院 | バットスイング速度に及ぼすメディシンボールの適正重量の検討 |
| 29 | 今若 太郎 | 上智大学 | 発育に伴う野球の打撃・投球・走塁能力を規定する身体的要素の変容 |
| 30 | 工藤 翼 | 仙台大学 | アルティメット競技におけるサイドハンドスロー時の熟練 者と未熟練者の手関節動作の比較 |
| 31 | 三宅 麟太郎 | 鹿屋体育大学大学院 | 複数の行為選択肢間の競合がサッカーのインサイドキック 動作に与える影響 |
| 32 | 池田 希 | いけだ接骨院 | バイオメカニクス的研究から得た頭部外傷を予防する後ろ 受身指導のキーポイント |
| 33 | 高橋 将 | 大東文化大学 | 30回連続反復片脚Drop Vertical Jump課題により顕在化す る足関節捻挫既往者における着地時前額面制御の特徴 |
| 34 | 吉田 平 | 平成国際大学 | 下肢傷害既往歴がランニング動作特性に及ぼす影響 |
| 35 | 平野 智也 | 鹿屋体育大学 | 短距離走選手の最大速度局面における腕振り動作の運動学的特性 |
| 36 | 西 徹朗 | 早稲田大学 | 下肢のバネ特性が疾走速度の逡減に与える影響について |
| 37 | 内藤 耕三 | 創価大学 | 野球の投球における加速特性の最適性を評価するための理 論的モデルの提案 |

東京体育学会第17回学会大会の概要

- 日時** : 令和8年3月4日(水) 13:00~17:30(予定)
- 場所** : 東京学芸大学 小金井キャンパス 芸術館(〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1)
- 最寄り駅 JR 国分寺駅, 武蔵小金井駅
- アクセス <https://www.u-gakugei.ac.jp/access/>
- テーマ** : 「AI時代における体育・スポーツ科学の行方」—変わらない本質と変わり続けるテクノロジー—
- 参加費** : 会員は無料、非会員は1,000円
- ※非会員で参加を希望する場合は、事務局(tokyotaiiku@ml.senshu-u.ac.jp)にご連絡下さい。
- 情報交換会: 2000円(学生無料)

大会プログラム※一般研究発表の申込数により多少の変更があります。

-
- 13:00~13:10 開会式
- 13:10~14:30 シンポジウム 「AI時代における体育・スポーツ科学の行方」
— 変わらない本質と変わり続けるテクノロジー—
- シンポジスト: 福永哲夫(順天堂大学客員教授)
相原伸平(ハイパフォーマンススポーツセンター)
- 座長 : 吉岡伸輔(東京大学)
- 14:40~16:00 ポスター発表(2分間の口頭による概要説明)
- 16:00~17:00 ポスター発表(責任着座制)
- 17:15~17:30 総会、表彰式、閉会式
- 18:00~19:30 情報交換会
-

東京体育学会
会長 沢井史穂
理事長 柏木 悠



東京体育学会第17回学会大会
AI時代における
体育・スポーツ科学の行方
~変わらない本質と変わり続けるテクノロジー~

2026年
3月4日(水)
13:00~17:30

場所: 東京学芸大学 小金井キャンパス(芸術館)
(〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-4)

参加費: 会員は無料 非会員は1,000円
*非会員で参加を希望する場合は、事務局(tokyotaiiku@ml.senshu-u.ac.jp)にご連絡ください

大会プログラム

13:00~13:10 開会式
13:10~14:30 シンポジウム
「AI時代における体育・スポーツ科学の行方」
— 変わらない本質と変わり続けるテクノロジー—

シンポジスト 福永哲夫(順天堂大学客員教授)
相原伸平(ハイパフォーマンススポーツセンター)
座長 吉岡伸輔(東京大学)

14:40~15:40
ポスター発表(2分間の口頭による概要説明)

15:50~16:50 ポスター発表(責任着座制)
17:00~17:30 総会、表彰式、閉会式
18:00~19:30 情報交換会

主催: 東京体育学会 共催: 東京学芸大学

会報「とうきょう」2025年度 第2号

発行日: 2026年2月25日 編集: 広報委員会
発行人: 東京体育学会 会長 沢井史穂
〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
専修大学5号館G11研究室内 東京体育学会事務局
e-mail: tokyotaiiku@ml.senshu-u.ac.jp